ぐんま幼児教育センターだより

臨時号

群馬県総合教育センター　幼児教育センター　平成30年10月発行

幼保こ小の連携・接続に関する課題解決に向けて

９月発行の「ぐんま幼児教育センターだより　第３３号」で、幼児教育センター調査研究事業「幼保こ小の連携・接続に関する実態調査」のまとめと考察をお伝えしました。

本稿では、明らかになった課題の解決に向けて実践的取組を提案します。

（１）接続期の教育課程の編成及び実施の推進

幼児教育施設

①　教育課程（全体的な計画）の就学が近くなった時期の指導計画に「接続期」と追記しましょう。

②　3月末、修了時の姿を教育課程（全体的な計画）に明記し、その姿を幼児が進学するすべての小学校に送りましょう。

小学校

①　幼児教育施設から送られてくる修了時の子どもの姿を入学時の姿として「スタートカリキュラム」に明記しましょう。

②　「スタートカリキュラム」の編成･実施をしていない小学校では、学校の財産として蓄積･活用されてきた（新入学児の心情や経験を考慮した）週案を「スタートカリキュラム」としましょう。そして、見直し改善を図りましょう。

幼児教育施設

①　自園・所の教育課程（全体的な計画）を見直してみましょう。就学が近くなった時期（１０月頃～３月）の指導計画は、「継続」「共通の目的」「話し合ったり協力したり」「やり遂げる」という言葉が多くなっていませんか。特別に接続期を強く意識したものを再編成するまでもなく、これまであるものを活用して、５領域のねらいへ向かう５３の内容が幼児の主体的な遊びの中でしっかり体験できるようになっているか、「環境を通して行う保育」「遊びを通した総合的な指導」を実現しているかを見直していくことが重要です。そして、就学が近くなった「期」に「接続期」と追記することで、

教職員の見直しの意識も高まるでしょう。教育要領等や解説では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記され、小学校教育との接続については強調されていますが、「接続期カリキュラム」という文言は使用されていません。幼児教育を充実させ幼児期に期待されている幼児の育ちを保障することが学びの連続性を考えたときにも最も重要なことと言えます。

② 現在の教育課程（全体的な計画）には、おそらく各期のねらいにつながる幼児の姿が、前の期の終わりの姿として書かれていると思います。しかし、修了時の姿は書かれていないのではないでしょうか。そこで提案です。**最後の期が終わったときの姿（修了時の姿）を教育課程（全体的な計画）に明記しましょう。**そして、その姿の記述を幼児が進学するすべての小学校に送り、「スタートカリキュラム」のねらいに繋がる姿として活用してもらいましょう。この取組により、小学校との教育課程の接続が可能になるのです。

小学校

① 小学校では、**幼児教育施設から送られてくる３月末の子どもの姿（修了時の姿）を入学時の姿として「スタートカリキュラム」に明記しましょう。**複数の幼児教育施設から入学してくる場合には、すべての姿を載せましょう。一人一人の児童の実態を意識して、入学当初の計画を見直すことに繋がります。そして、幼児教育施設との教育課程の接続が実現します。

② 新小学校学習指導要領では、「スタートカリキュラム」の編成・実施が明記されました。「スタートカリキュラム」と名称を付けていなくても、小学校ではこれまでも入学してくる児童の心情や経験を考慮した計画（週案として）を作っていると思います。実は、それが「スタートカリキュラム」と言えます。**「スタートカリキュラム」未作成の小学校では、学校の財産として蓄積されて活用されてきた週案を「スタートカリキュラム」として、見直しを図っていく土台にしていきましょう。**そのとき、更に児童の実態に寄り添う計画にしていくために、幼児教育施設の取組を参考に環境を構成したり、１単位時間を１５分×３教科として捉え合科的な計画にしたりするなどの工夫をしましょう。

ただし、最も大切なことは、「スタートカリキュラム」を編成することだけではありません。無藤[1)]は、小学校で大切にしてほしいことを次のように言っています。

> 「小学校では低学年の始まりにおいて、幼児期に育ってきた資質･能力をさらに伸ばすために、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて指導を進めます。そのため、１年生の始めの段階では「スタートカリキュラム」として、この１０の姿が発揮されるような場面を用意していきます。それは幼児教育から学ぶことができますし、適応指導などもいろいろな幼保からやってくる子どもがいる中で、子どもの意見を聞きながら、子どもと相談し、小学校の事情を説明しつつ、実施していくことです。そこから徐々に教科の教育へと子どもを導きます。」

特に「子どもの意見を聞きながら、子どもと相談し、小学校の事情を説明しつつ」という教師の姿勢が、幼児期に育まれた資質・能力を発揮して、主体的・対話的で深い学びを実現していく児童の姿につながっていくと考えられます。

1)「育てたい子どもの姿とこれからの保育　―平成 30 年度施行　幼稚園・保育所・認定こども園新要領・指針対応―」無藤 隆（2018）ぎょうせい p6

（２）相互理解に係る合同研修会や保育･授業研究会の実施･参加の促進と充実

「夕やけ保育研修会」で幼保こ小の連携･接続に関する研修を充実させます。

小学校区もしくは中学校区単位において、区内に所在する幼児教育施設及び小学校でクループを構築し、研修会や保育･授業研究会を継続的に実施している市町村があります。例えば沼田市では、公私立問わず、市内に所在する幼稚園・認定こども園・保育所・小学校で連絡を取り合い、すべての園所・小学校が研修会等に参加する機会を作っています。会場校園で授業や保育を参観した後、幼保こ小の連携･接続に関する講演を聴き、その内容を受けてグループディスカッションを行っています。このような先進的な取組を参考に、研修・研究グループを作っていくのもよいと思われます。また、保育・授業参観は半数以上の園所・小学校が行っていることから、今ある組織を上手に利用し、地域内の幼児教育施設すべてに範囲を広げていくことも大事になっていくでしょう。そして参観後に短い時間でも研究会を行い、教職員同士がそれぞれの教育について意見を交わす時間をつくるだけでも、互いの教育について理解を深めることになり、円滑な接続のための一歩になると考えられます。

しかし、すぐに組織的に研修会等を実施していくのは、現実的に難しいところがあるでしょう。**幼児教育センターでは、来年度、幼保こ小の連携・接続に関する研修を充実していこうと企画しています。主に「夕やけ保育研修会」での実施を考えています。「夕やけ保育研修会」は、市町村にある施設で開催していきますので、近隣で開催の折は皆様お誘いの上ご参加ください。**

（３）時間的制約がある中での相互理解に係る研修の実施と充実

映像や写真、エピソードを活用して園内･校内研修で相互理解の推進を図りましょう。

多忙化等時間的制約がある中、外部に出向かなくても、園内研修や校内研修で相互理解を進める方法があります。**映像や写真、エピソードを基に幼児や児童の姿から、経験している学び、育ちつつある資質・能力を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連させて読み解いていく方法です。その際に、幼児教育センターの保育アドバイザーを活用していただいてもよいと思います。**

また、幼児教育施設では、小学校学習指導要領を読み、学びの連続性の理解を進める方法もよいでしょう。小学校では、幼児教育施設の環境の構成について写真や映像を基に学び、子どもが主体的に学習に取り組む環境の構築について研究していくことも考えられます。

（４）保育参観や授業参観の実施率向上と様々な立場の教職員による参観

「いつでも都合がよいときに参観に来てください」というオープンな雰囲気の構築を図りましょう。

公開保育や公開授業で参観を行おうとすると、行事等で参加できないことがあったり、限定的な教職員の参加になったりするのではないでしょうか。

これを解決するポイントは、各園所･小学校の構えと各教職員の思考の転換にあると考えます。**「いつでも都合がよいときに参観に来てください」というオープンな雰囲気をつくりましょう。**いつでもと言っても、当然不可能な日はあるわけですので、年間行事予定表や月別予定表の交換をしていくことが重要です。それによって、意識も高まると考えられます。

幼児教育施設へ小学校の教職員が参観に行く場合には、可能であれば担任外（園長や教頭、主任等）の教職員が一緒に参観して、必要に応じて遊びの背景やその意味、体験している学び、育ちつつある資質・能力について解説していくと幼児の学びが明らかになっていくと思います。

小学校へ幼児教育施設の教職員が参観に行く場合には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に児童の学びの連続性を中心に児童の姿を見取るとよいと思います。

＊連携・接続を推進する際に参考にしていただきたい資料

「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム　スタートカリキュラム導入･実践の手引き」
文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター　編著
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_180322.pdf

「スタートカリキュラムスタートブック」
文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_mini.pdf

「保育にたずさわる人のために　就学前の　ぐんまの子ども　はぐくみガイド2014」
群馬県教育委員会･群馬県

「学びのつながりを求めて　～幼児教育から小学校教育へ～」
群馬県教育委員会